

9 巻頭トピックス  
LOVE glasses

特集  
23 Silmo特集

- 24 Pick up news !
- 26 今年のシルモって? シルモドール etc
- 28 **バイングレポート①** マット
- 30 **バイングレポート②** リフトアップめがね
- 32 **バイングレポート③** メンズブロウ
- 33 **バイングレポート④** カーボン
- 34 **バイングレポート⑤** 魅せめがね
- 35 **パリの街中で注目4ブランドを撮影!**
- 39 **バイングレポート⑥** インテリジェンヌめがね
- 40 **バイングレポート⑦** メンズベーシック
- 42 **バイングレポート⑧** サングラス
- 44 **バイングレポート⑨** ニュートレンド
- 45 **パーティ ナイト♪**
- 46 **バイングレポート⑩** ミドルサイズ
- 47 **バイングレポート⑪** リーディング
- バイングレポート⑫** キッズめがね
- 48 **バイングレポート⑬** 素材
- 49 **パリの街中ショッパ**
- 50 **ジャパンプランド**
- 52 **番外編 プルミエールクラスへ行ってきました**

新作商品紹介

65 **JUST WEAR IT!**

79 **iOFT秋の新作眼鏡特集**

- 111 **パーティ レポート♪**
- 112 **東京の街中でも新作発表が!**

116 **クリエイターの眼鏡**

122 **新連載! 山口淳コラム 眼鏡をめぐるmono語り**

第一回◎「リーディンググラスはオトナの証し」

124 **新連載! インテリアデザイナー×ショッパスタッフ  
ブランドを効果的に伝えるショッパ空間のつくり方**

第一回◎「POKER FACE編」

126 **ショッパオープン情報**

127 **問い合わせリスト**

# シルモ 特集

Photo / イジェル・レオ HIGEL Leo、堀出集 Horide Jun (p.35-38) (byBenoit)  
Text / 伊藤美玲 Ito Mirei 協力/フランス見本市協会  
Illustration / 堀出集 Horide Jun (byBenoit)

もし、モード・オブテイクがショップだとしたら……？  
今年は、そんなコンセプトでシルモへ行ってきました。  
掛ける人を意識してフレームを吟味したり、  
ブースのディスプレイを参考にしたり。  
ときには会場を飛び出して、パリの街中に  
お店づくりのヒントを探しに行ったり……。  
いつもと違う視点で見るシルモ、そしてパリは  
やはり刺激に溢れていました。  
とあるショップの、仕入れの旅日記を覗くような  
そんな気持ちでページをめくってみてください。

If we are a  
buyer...

Lafont ラフォン

天地幅浅めのサーモントフレーム。繊細な柄生地を重ねた立体的なチェック柄が優美で、プロウラインは男性的ながらエレガントな風合いに。いつものスーツ姿に洒落感を与えてくれる。「HIDALGO」価格 3万5700円 〇イワキメガネ



ROBERT MARK

ロバートマーク

テンブルに搭載された新たなバネ機構は、片手でフレームが外しやすいよう配慮したものなのだとか。ガンメタルのスクエア型が目元をシャープに見せてくれる。

「RMX2」価格 5万3550円 〇グローブスペックスエージェント



LINDBERG

リンドバーク

左/表情にニュアンスをプラスするネイビーのスクエア型。「1235」価格 4万7000円、右/ティアを繊細に仕上げ、オンビジネスにも〇なデザインに。「3051」価格 5万5000円 〇リンドバーク 日本専用カスタマーサービス



WOLFGANG PROKSCH ウォルフガング・プロクシュ

デザイナー Wolfgang Proksch



独ブランドらしいフォルムの大振りなメタルフレーム。ゴールドベースにブリッジや智はシルバーでアクセント付けしたりと、繊細なディテールが映える。「WP-1121」価格 3万7800円 〇サラディストリビューション東京



これはまちがいに売れそう

FREUDENHAUS フロイデンハウス

今シーズンのキーワードは「アンチレトロ」。フロイデンハウスらしい深いまでにミニマムでモードな佇まいの横長スクエアは、クラシックブームのなか貴重な存在だ。「Miller」価格 3万6750円 〇グローブスペックス エージェント

デザイナー Stefan Flatscher



デザイナー tools



MONOQOOL モノクール

渦巻状のヒンジが特徴のモノクール。今季の新作ではテンブルに強弱がつき、横顔の存在感をアップ。モダン部分の芯金形状も変化し、よりフィッティングがしやすくなった。価格 4万2000円 〇モノクール・ジャパン

スーツスタイルに合わせたい

# メンズベーシック

「buying report n°: 007」  
 select point of MODE OPTIQUE  
 trend  useful  function  sunglasses  men  women  kids  
 「売れ筋を買って」



FREDERIC BEAUSSOLEIL

フレデリック ボーソレイユ

デザイン性の高い眼鏡もいけれど、平日はスーツで働いているとなればベーシックなフレームも1本押さえておきたいものだ。ここでは、オンビジネスでも使えるさりげなくこだわりを發揮できるフレームをセレクトした。  
 たとえば、「モノクール」のように独自の機構をもっていたり、「プロデザイン」のように、裏地に凝ってみたり。片手で眼鏡が外しやすい機構を搭載した「ロバートマーク」のようにウインタックが語れるのもいだろう。決して派手ではないが、自分だけのひそやかな楽しみを持っている。それが大人の男のお洒落というものだ。  
 眼鏡はスーツスタイルに個性が加えられる貴重なツールだけに、ぜひこだわりの1本を提案したい。

FROST フロスト

掛け具合をセレクトできる独自のシステムをテンブルに採用したシートメタル、「F-type」の新作。太さに強弱をつけたスクエアが、表情にニュアンスをプラス。「UNIT」価格 4万1900円 〇フロスト・ジャパン

精悍な印象を醸し出すミドルサイズの横長スクエア。カーキ色のフロントにはマット加工が施され、より落ち着いた雰囲気。マツケリの生地を使ったテンブルが横顔に色を添える。「MTA40」価格 3万8850円 〇トゥーランドット



Prodesign プロデザイン

上/フロントはアルミ製。テンブルの表側は無地なので、掛けるとよりシンプルに。「7903」参考価格 3万1500円、下/クセのないブラウンのスクエアフレーム。控えめなテンブルの横線が〇。「1245」参考価格 2万3625円 〇AOE



限定品がある店の店にも欲しい...



Urband アーバン

フロントにブロックチタン、テンブルにはバッファローホーンを使った贅沢なモデル。ヒンジは弾力性に富むサージカルステンレス製で、掛け心地良好。写真のケースはホーン製モデル専用だ。価格 7万9800円「UBH7」〇ブリッジ



OLIVER GOLDSMITH

オリバーゴールドスミス

今季は同ブランドから、メタルのコレクションが登場。繊細なリムによる小振りの八角形型は、掛けるだけで知的でアーティスティックな表情に導いてくれる。「Oliver Octag」価格 2万9400円 〇サラディストリビューション東京

## iOFT モード・オプティークブース内で展示した 眼鏡スタイリスト 藤裕美さんによる、 KODOMO眼鏡プロジェクト

子どもたちに眼鏡の楽しさを理解してもらうため  
藤裕美さんがはじめたスタリングイベント。  
子どもたちが集う場所に赴き、眼鏡の掛け方を指南する試みだ。  
その様子を撮影してiOFTのモード・オプティークブースに展示。  
笑顔あふれる子どもたちの写真が眼鏡の楽しみを知る喜びを物語っている。

藤裕美さん

眼鏡屋に勤務しながら彫金技術を学び、ネジからすべて眼鏡を製作し勉強を重ねる。店長としてSHOPプロデューサーやバイヤーを務めたあと、ドイツへ渡りFROSTに勤務。2009年より眼鏡スタイリストとして活動。著名人のスタイリングや、誌面でのスタイリング、講演会、デザインアドバイスなど、めがねにまつわることをなんでも手掛ける。2011年10月『めがねを買いに』刊行 (WAVE出版)



LINDBERG

©リンドバーク 日本専用カスタマーサービス



KAMURO

©カムロコーポレーション



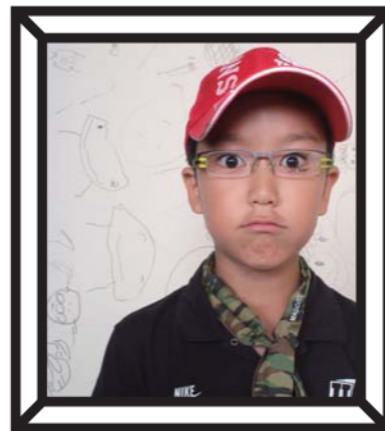
J.F.Rey

©ジェイ・エフ・レイ プティットーキョー



REC SPECS

©イワキメガネ



J.F.Rey

©ジェイ・エフ・レイ プティットーキョー



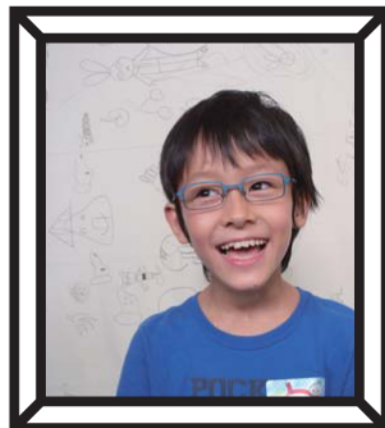
LINDBERG

©リンドバーク 日本専用カスタマーサービス



Eye' DJ

©トウランドット



lafont

©イワキメガネ



ic!berlin

©アイシー! ベルリン

# 今年はモード・オプティークも iOFTブースを出しちゃいました。

毎年秋、東京ビッグサイトで行われるiOFTは日本最大級のアイウェア展示会。  
今年も10月11日~13日の3日間、眼鏡関連企業各社が一堂に会し、盛大に開催された。  
なんと今年は、「モード・オプティーク」もブース出展に大参戦!

Photo / 青木健格 Aoki Takenori (WPP) Text / モード・オプティーク編集部 Mode Optique Magazine



眼鏡コンシェルジュと題して、編集部をはじめ、ライター伊藤美玲さん、実川実さん、小堀真子さん、デザイナーのholidayさんを中心に、今期モデルの特徴やモデルの見所、日々の取材で得られた最新情報をアップデート。

ブース壁面は一気に取材情報をアップする掲示板に。また、3日間という短い会期中、分単位で走り回る我々の取材起点に、そのほか、眼鏡スタイリストの藤裕美さんがコーディネートしたKODOMO眼鏡の写真展示もブースに彩りを添えた。



最後に、スタッフ全員でバシャリ! 完売本も結出。こんな私たちが毎号モード・オプティークを作っていますので、応援宜しくお願い致します!

